製造技術の向上に努めた結果，海軍の要望せる爆雷関係の部品の素材を生産し戦力増強に大なる貢献をなし，軍需大臣，海軍大臣より優良工場としての表彰をうけた．昭和 23 年5月より現在に至るまで山陽製鋼株式会社において特殊鋼，とくに軸受鋼の製造技術の向上改善に努力を傾注した．その間部下を指導し特殊鋼製造技術の向上に努めた結果，特殊鋼の下注鋳込法を確立し，量品質共に優良なる特殊鋼々材の製造法を確立した．

かくのごとく君の特殊鋼の製造技術の普及向上に対する功績はいちじるしく，斯界に貢献するところ大なるものがある．よつて表彰規程第7条の規定により，協会賞を受ける資格十分なるものと認める．

協会賞受領者

株式会社日本製鋼所室蘭製作所熔鋼工場長
工学士　守　川　平四郎君

製鋼作業の合理化ならびに鋼塊の歩留向上に対する功績

君は昭和 16 年東京大学工学部冶金科卒業，ただちに日本製鋼所に入社，室蘭製作所熔鋼工場に勤務し爾来一貫して製鋼作業に従事し，酸性平炉，塩基性平炉，塩基性電弧炉による優良鍛造用鋼塊の製造ならびに大型鋳鋼熔製法の確立および改善に多大の功績をあげた．とくに戦後製鋼原材料の不足悪化に対処しては深い経験とたゆまざる研究によつて，塩基性平炉における生ドロマイト炉床の実用化，塩基性平炉による大型特殊鋼塊の製造法を確立してその危機を打開し，さらに米国 U.E 社との技術提携になる特殊鋳鋼ロールの熔製に際しては彼我の条件の相違を克服し，その熔解法の確立に大いなる寄与をなし，U.E 社製に勝る製品製造の基礎を樹立した．

また船舶用あるいはボイラープレート用の超大型厚板用の低炭素キルド鋼の製造に対しては熔解精錬造塊の各方面にわたつて最新の技術を実際現場に充分に活用して厚板用大型鋼塊の製造方法を改善し，その圧延歩留りの向上と飛躍的増産および生産原価の引下げに貢献し，厚板製造技術を世界的水準に達せしめた．とくに低炭素キルギ鋼および構造用鋼の大型鋼塊の製造に関連し種々実験研究を行いすでにその一部は日本鉄鋼協会講演大会，製鋼部会等において報告され，わが国の製鋼分野における技術の発展に貢献しその功績ははなはだ大きい．よつて表彰規程第7条の規定により協会賞を受ける資格十分なるものと認める．

昭和31年度（昭和31年3月1日から昭和32年2月28日まで）日本鉄鋼協会事業および会計報告

事　業　報　告

I．会　　議

本会運営上の会議を次の通り開催した．

1．第 41 回通常総会　昭和 31 年4月1日
議事（1）理事および評議員の選挙
（2）昭和 30 年度事業報告
（3）昭和 30 年度収支決算報告
（4）昭和 31 年度収支予算審議
（5）正会員および学生会員会費値上げの件
（6）定款変更の件

2．評議員会　昭和 31 年2月 17 日
議事（1）次期理事，監事，評議員候補者推薦の件
（2）昭和 31 年度事業報告，収支決算報告ならびに財産目録の件
（3）昭和 32 年度事業計画ならびに収支予算の件
（4）服部賞，香村賞，俵賞，渡辺賞，協会賞，各受賞者決定の件
（5）表彰ならびに事業資金規程制定の件
（6）表彰規程制定の件

3．理事会　毎月1回，臨時1回，計 13 回開催，毎月の事務ならびに会計事項の審議，その他一般会務を協議処理した．

4．編集委員会　毎月1回，臨時2回，計 14 回開催会誌の編集方針，企画，掲載論文の選定，技術資料の蒐集，その他会誌編集に関する一切の事務を協議処理した．

5．企画委員会　随時7回開催，事業運営上の諸企画につき審議立案した．

6．支部長会議　昭和 31 年4月1日
各支部の事業状況の報告があり，協会発展に関する件会員拡大運動に関する件，本部支部間連繋に関する事項等につき協議した．

II．会　　員

本年度において次の通り会員の異動があつた．

会員別 / 異動	名誉会員	賛助会員	維持会員 員数	維持会員 口数	正会員	学生会員	外国会員	合計	組織団体数
昭和31年2月29日現在	19	41	125	662	4774	165	0	5124	67
入会			+51	+224	+347	+168	+2	+783	
退会		−1	−3	−3	−123	−18		−150	
死去	−1				−11			−12	
住所不明					−6	−1		−7	
復活					+3			+3	
転格					+59 −15	−59	+15	−15	
昭和32年2月28日現在	18	40	173	883	5223	255	17	5726	73

III．役員やよび委員

本年度において次の通り役員および委員の異動があつた．

1. 理　事

昭和 31 年4月1日通常総会において理事の改選を行い次の通り選定した.

芥川　武　浅田　譲　入　一二　岡村　武
河上　益夫　西郎　吉郎　志村清次郎　角野　尚徳
田畑　新太郎

同日理事会において互選により次の通り選任した.

会　長　角野　尚徳
副会長　志村清次郎

昭和 31 年 12 月 10 日理事岡村武は辞任した.

2. 監　事

昭和 31 年2月 17 日評議員会において監事2名の改選（内1名補欠）を行い，次の通り選任した.

俵　信次(補欠)　西村吉太郎

3. 評議員

昭和 31 年4月1日通常総会において評議員の半数改選を行い，次の通り選任した.

浅輪　三郎　荒木　透　網谷　俊平　有光　次郎
井関　剛　井村　荒喜　岩瀬　慶三　岩井雄二郎
石田　四郎　石塚　桑蔵　石原寅次郎　石原　善雄
石原米太郎　内川　悟　小田原大造　大塚　誠之
大原　久之　大元　博　荻野　一　金森　九郎
河田　重　木村幸次郎　菊田多利男　久保田　豊
黒田　泰造　越　達三　小平　俊雄　小林佐三郎
佐野　幸吉　寒川恒一郎　塩沢　正一　園田　一夫
田中　国雄　田中　徳松　高尾善一郎　武田　修三
谷口　光平　谷村　凞　富山英太郎　中山　育雄
西山弥太郎　平世　将一　藤川　一秋　藤村　哲之
箕田　貫一　宮代　彰　村上武次郎　森　竜郎
湯川　正夫

4. 常務委員

全員任期満了につき昭和 31 年5月1日次の通り常務委員を委嘱した.

伊木　常世　佐藤　忠雄　俵　隆治　辻畑　敬治
長谷川正義　橋口　隆吉　三橋鉄太郎　森永　孝三
横山　均次　吉崎　鴻造　吉田　道一

8月 27 日松本豊を新たに常務委員に委嘱，また常務委員俵隆治辞任につき 10 月 31 日山本信公を常務委員に委嘱した.

5. 編集委員

全員任期満了につき昭和 31 年5月1日次の通り編集委員を委嘱した.

井上　孝　池田　義孝　上野　学　内山　道良
小野　六郎　沢　繁樹　堀川　一男　松下　幸雄
安田　洋一　山木　正義

編集委員池田義孝辞任につき7月 13 日皆木忠夫を編集委員に委嘱した.

企画委員

昭和 31 年 11 月6日新たに次の通り企画委員を委嘱した.

伊藤　博　石渡　鷹雄　鵜瀞　浩　木下　亨

IV. 事　業

本年度における事業の概要次の通り

1. 会　誌

「鉄と鋼」第 42 年第3号より第 43 年第2号まで12冊発行，なお創立 40 周年記念事業の一として会誌総索引（昭和 10 年より 29 年まで 20 年間）を編集刊行した.

2. 刊 行 物

Tetsu to Hagane Abstracts No. 4 (1954)

鉄鋼製造法（U.S. Steel Corp. Making Shaping and Treating of Steel の翻訳）上，中，下3巻，

鋼の熱処理　編集完了，3月発行の予定

3. 鉄鋼技術共同研究会

鉄鋼技術共同研究会（通商産業省重工業局，日本鉄鋼連盟および本会三者の共同組織）は製銑部会，製鋼部会鋼材部会，特殊鋼部会，熱経済技術部会，鉄鋼品質管理部会の七部会に分れ，さらに本年度新たに調査部会を設け，各部会はまたそれぞれ分科会または小委員会に分れて，担当の研究事項について活潑なる調査研究を行った.

4. 工業標準原案の作成

工業技術院長よりの委託により，下記の委員会を設け調査研究中，—中空鋼工業標準原案作成委員会—

5. 講演会，見学会および講習会等の開催

（1） 春季講演大会

講演会　昭和 31 年4月1日より3日まで東京大学工学部において開催
　　講演　125　特別講演　3

見学会　昭和 31 年4月4日
　　見学箇所　23

（2） 秋季講演大会

講演会　昭和 31 年 10 月 11 日，12日広島市広島大学工学部において開催.
　　講演 141　特別講演 2

見学会　昭和 31 年 10 月 13 日
　　見学箇所　15

（3） 酸素製鋼法に関する講演会

昭和 31 年5月 24 日東京大学工学部において開催.

講師　オーストリア，アルピネ，モンタンゲゼルシャフト技術担当重役オトウイン・クスコレカ氏.

（4） 塑性加工講演会

昭和 31 年 10 月 25 日～27日　日本交通協会において，日本機械学会外4団体と共催.

（5） 品質管理大会

昭和 31 年 11 月 19 日～23日　名古屋市において，日本科学技術連盟他 18 団体と共催.

6. 表　彰

昭和 31 年4月1日通常総会において表彰式を行い，下記の通り表彰した.

服部賞牌　遠藤勝治郎
服部賞金　太田　隆美　黒田　幸二　深堀　佐市
　　山内　仁
香村賞牌　高石　義雄
香村賞金　安藤　卓雄　木下　恒雄　山口　道夫
俵　賞　沢　繁樹，沢村宏，盛利貞
渡辺賞牌　山本　信公
渡辺賞金　小山　吉郎

7. 定款の改正

会員の増加と，社会情勢の変化に応ずるため，定款の全面的改正を企図し，調査研究の結果‘成案を得たので通常総会に付議してその議決を経，さらに文部大臣の認可を受けて定款の改正を実施した．

8. 会員拡大運動

協会組織の拡大強化を図るため，5月より9月までの期間に，会員拡大運動を実施し，正会員，学生会員あわせて513名の新入会を得た．また同時に維持会員に対して維持資金の口数増加を依頼するとともに，新規維持会員の加入を勧誘し，それぞれ多数の成果を収めた．

9. 鉄鋼標準試料の分譲

従来に引続き鉄鋼標準試料の分譲を行つているが，最近需要増加のため品切を生じ，分譲に支障を来たしたので，とくに鉄鋼標準試料委員会を設けて対策を研究，製造依頼先の増加，分析の促進等に努力したので，その後製造分析ともに着々進行し，近く22種の試料金部を整備，分譲の求めに応じ得る見込み．

10. 対外関係

英文 Tetsu to Hagane Abstracts No. 4(1954) を発行し，米，英，仏，独，瑞典，ポーランド，スペイン，ノルウエー，カナダ，インド，インドネシアその他の海外諸国の製鋼関係学協会，大学，図書館，研究所，会社商社等に寄贈し，技術の紹介，交流に資した．なお Abstracts No. 5 (1955) は目下刊行準備中，米，英，仏，独，インド，インドネシアその他の諸国の鉄鋼会社その他の諸団体と引続き会誌その他の印刷物の交換をした．また，Abstracts 所載論文の原文翻訳の依頼等を初め取引の紹介その他の照会斡旋多きを加えたが，これらに対しそれぞれ回答を発し彼我の意思疏通，技術の交流に努めた．

なお新たに外国会員制度を設けたが入会者漸次増加した．また会誌の海外頒布も急激に増加した．

IV. 地方支部の活動

北海道支部，東北支部，北陸支部，東海支部，関西支部，中国四国支部，九州支部の各支部においても，それぞれ講演会，見学会，研究会，講習会等を開催した．

V. 庶務事項

1. 昭和31年3月21日　工業技術院長より委託に係るマクロ組織試験方法工業標準原案調査報告書を同院長に提出．

2. 昭和31年5月21日　資産総額に関する登記変更申請書を東京法務局日本橋出張所に提出．

3. 昭和31年4月27日　昭和30年度事業報告，収支決算書，昭和31年予算書，第41回通常総会報告を文部大臣に提出．

4. 昭和31年10月31日　工業技術院長より中空鋼工業標準案原案作成の委託を受く．

5. 昭和31年5月1日　定款変更認可申請書を文部大臣に提出，12月18日文部大臣の認可を受く．

6. 昭和32年2月12日　定款変更に関する登記変更申請書および岡村理事辞任に関する登記変更申請書を東京法務局日本橋出張所に提出し，登記を完了す．

会　計　報　告

昭和31年度収支決算

収入 費目	金額	支出 費目	金額
前年度繰越	273,028円	会誌	5,252,400円
会費	8,446,747	印刷費	4,338,488
維持会員	3,677,700	編集費	172,345
賛助会員	0	発送費	741,567
正会員	4,616,721	刊行物	914,599
学生会員	121,706	アブストラクト	230,000
入会金	30,620	会員名簿	7,280
参加出席費	174,422	鋼の熱処理	1,160
総大会出席費	174,422	鉄鋼製造法	676,159
講習会出席費	0	熱経済その他	0
分譲料	939,253	会合費	357,370
会誌類	451,153	会議費	111,105
会員名簿	700	総大会	197,375
会員章	4,000	講演会	3,810
鉄鋼標準試料	483,400	講習会	0
印税	478,420	研究調査会	45,080
鋼の熱処理	19,500	支部補助金	116,500
鉄鋼製造法	394,920	人件費	2,469,027
熱経済その他	64,000	俸給及手当	1,934,538
広告収入	805,630	旅費及謝礼	156,050
調査委託金	34,850	社会保険料	78,439
利子	22,602	退職積立金	300,000
雑収入	29,804	事務費	1,705,370
		借室料	453,600
		筆紙墨及通信費	476,859
		交通費その他	
		図書及び什器費	61,111
		鉄鋼試料諸費	307,274
		恵替貯金手数料	95,205
		団体手数料	221,997
		雑費	89,324
		予備費	0
		次年度繰越	389,490
合計	11,204,756	合計	11,204,756

別途会計収支決算

資金別	収入 費目	収入 金額	支出 費目	支出 金額
服部博士記念資金		15,395円		15,395
	前年度繰越 本年度利子 俵資金より繰入	1,234 1,661 12,500	表彰費 次年度繰越	12,772 2,623
香村博士記念資金		13,801		13,801
	前年度繰越 本年度利子 渡辺資金より繰入	2,127 1,674 10,000	表彰費 次年度繰越	10,772 3,029
俵博士記念資金		35,115		35,115
	前年度繰越 本年度利子	218 34,897	表彰費 服部資金へ繰入 次年度繰越	12,788 12,500 9,827
河村博士寄贈資金		473		473
	前年度繰越 本年度利子	51 422	次年度繰越	473
野田文庫資金		31,010		31,010
	前年度繰越 本年度利子	22,376 8,634	次年度繰越	31,010
日本鋼管会社寄贈資金		74,889		74,889
	前年度繰越 本年度利子 興業債券調整勘定による分配金	10,850 20,537 43,502	次年度繰越	74,889
日本特殊鋼会社寄贈資金		13,604		13,604
	前年度繰越 本年度利子	9,240 4,364	次年度繰越	13,604
今泉博士記念資金		12,468		12,468
	前年度繰越 本年度利子	5,613 6,855	次年度繰越	12,468
渡辺博士寄贈資金		25,841		25,841
	前年度繰越 本年度利子	17,296 8,545	表彰費 香村資金へ繰入 次年度繰越	6,773 10,000 9,068
職員退職資金積立金		853,477		853,477
	前年度繰越 本年度利子 本年度積立	517,507 35,970 300,000	次年度繰越	853,477

財産目録

昭和32年2月28日現在

摘要	金額
	円
(資産之部)	
什器	323,186
電話	10,000
図書	26,490
借室敷金	113,400
分譲印刷物	72,660
会員章	2,350
鉄鋼標準試料	15,400
三菱銀行普通預金	277,401
勧業銀行 〃	85,954
振替貯金	23,212
現金	2,923
合計	952,976
別途資金(別途財産目録)	2,112,907
合計	3,065,883

別途財産目録明細

昭和32年2月28日現在

摘要	金額
	円
服部博士記念資金	22,623
三井信託銀行 信託預金	20,000
三菱銀行 普通預金	2,623
香村博士記念資金	23,029
三菱信託銀行 信託預金	20,000
三菱銀行 普通預金	3,029
俵博士記念資金	437,827
三井信託銀行 信託預金	200,000
三菱信託銀行 〃	223,000
東洋拓殖社債	5,000
三菱銀行 普通預金	9,827
河村博士寄贈資金	5,473
三菱信託銀行 信託預金	5,000
三菱銀行 普通預金	473
野田文庫資金	145,736
三菱信託銀行 信託預金	14,430
三井信託銀行 〃	23,446
住友信託銀行 〃	32,136
安田信託銀行 〃	29,988
三菱銀行 普通預金	31,010
図書	10,549
什器	4,177
日本鋼管会社寄贈資金	334,889
三井信託銀行 信託預金	150,000
安田信託銀行 〃	110,000
三菱銀行 普通預金	74,889
日本特殊鋼管会社寄贈資金	63,604
安田信託銀行 信託預金	50,000
三菱銀行 普通預金	13,604
今泉博士記念資金	117,181
三菱信託銀行 信託預金	16,599
三井信託銀行 〃	16,713
住友信託銀行 〃	16,097
安田信託銀行 〃	30,304
満鉄会社社債	15,000
東洋拓殖会社 〃	10,000
三菱銀行 普通預金	12,468
渡辺博士寄贈資金	109,068
三井信託銀行 信託預金	100,000
三菱銀行 普通預金	9,068
職員退職資金積立金	853,477
安田信託銀行 信託預金	853,477
合計	2,112,907

昭和32年度（昭和32年3月1日から 昭和33年2月28日まで）

事　業　計　画

Ⅰ．会　　議

通常総会	1回	4月
評議員会（定例）	1回	2月
理事会（定例）	12回	毎月
支部長会議	1回	4月

Ⅱ．委員会

編集委員会（定例）	12回	毎月
企画委員会（定例）	12回	毎月
鉄鋼標準試料委員会	2回	随時
工業規格委員会	4回	随時
表彰選考委員会	2回	2月

Ⅲ．集　　会

春季講演大会および見学会（東京）	1回	4月
秋季講演大会および見学会（八幡）	1回	10月
講習会	2回	随時
講演会	4回	随時
座談会	4回	随時
鉄鋼技術共同研究会（重工業局，鉄鋼連盟と共同）		
実行委員会	2回	3月，9月
製銑，製鋼，鋼材，特殊鋼，熱経済技術，品質管理，調査各部会ならびに分科会		随時
品質管理大会（他学会と共同）	1回	11月
塑性加工講演会（他学会と共同）	1回	12月

Ⅳ．表　　彰

服部賞，香村賞，俵賞，渡辺賞，協会賞	1回	4月

Ⅴ．刊　　行

会誌"鉄と鋼"	12回	毎月
アブストラクトNo.5（1955）	1回	10月
鋼の熱処理（改訂版）	1回	3月
会員名簿	1回	6月
ジャパン・サイエンス・レヴィウ採鉱冶金篇（他学会と共同）	2回	3月，9月

Ⅵ．分　　譲

鉄鋼標準試料（22種）	常時
会誌	常時

昭和32年度収支予算

収入 費目	金額	支出 費目	金額
前年度繰越	389,490円	会誌	6,050,000円
会費	9,220,000	印刷費	4,830,000
維持会員	4,050,000	編集費	240,000
正会員	4,960,000	発送費	980,000
学生会員	130,000	刊行物	830,000
外国会員	29,000	アブストラクト	230,000
入会金	51,000	会員名簿	240,000
参加出席費	360,000	鋼の熱処理	300,000
総大会出席費	200,000	鉄鋼製造法	0
講習会出席費	160,000	熱経済その他	60,000
分譲収入	1,143,000	会合費	710,000
会誌類	480,000	会議費	120,000
会員名簿	100,000	総大会	240,000
会員章	3,000	講演会，懇談会	120,000
鉄鋼試料	560,000	講習会	160,000
印税収入	750,000	研究調査会	70,000
鋼の熱処理	360,000	支部補助金	160,000
鉄鋼製造法	340,000	人件費	3,054,000
熱経済その他	50,000	俸給及手当	2,394,000
広告収入	940,000	旅費及謝礼	270,000
調査委託金	30,000	社会保険料	90,000
利子	24,000	退職積立金	300,000
雑収入	36,000	事務費	1,743,490
		借室料	454,000
		通信費，交通費	540,000
		その他	
		図書及び什器費	120,000
		鉄鋼試料諸費	170,000
		振替貯金手数料	120,000
		国体手数料	180,000
		雑費	159,490
		予備費	345,000
合計	12,892,490	合計	12,892,490

別途会計収支予算

資金別	収入 費目	金額	支出 費目	金額
表彰並びに事業資金		円 190,641		円 190,641
	前年度繰越	116,991	俵賞牌原型製作費	36,000
	本年度利子	73,650	表彰費	65,000
			次年度繰越	89,641
職員退職資金積立金		1,213,477		1,213,477
	前年度繰越	853,477		
	本年度利子	60,000		
	本年度積立	300,000	次年度繰越	1,213,477